

神戸映画資料館所蔵アニメーション フィルム of デジタルアーカイブ 事業

団体名 特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク

概要／課題

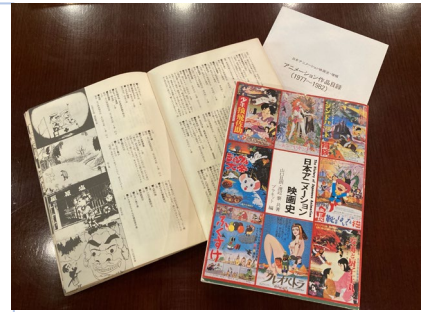
神戸映画資料館所蔵アニメーションの中には、複製化やデジタル化ができていないフィルム、さらには題名等が欠落し詳細が不明の作品が多数あったが、本事業の実施により成果を上げている。神戸映画資料館所蔵アニメーションのデジタル化と調査研究は、このコレクションを公開・活用するための基盤を構築するもので、日本アニメーション史の可視化の一端を担い、国内のみならず世界のアニメーション振興に資することにつながる。

本団体代表の安井喜雄がかつて企画編集した書籍「日本アニメーション映画史」（1977年、有文社刊）の作品目録の改訂作業は、所蔵フィルムという現物の調査から判明した事実に立脚しているため信頼性のある情報となり、他のデータベースにはない基礎資料としての利用価値があり、メディア芸術データベースなどの既存のデータベースへの活用が期待できる。さらに検閲情報や書誌情報が加わることで、さまざまな研究の促進、不明作品の同定、そして新たな作品発掘の可能性が広がる。

体制／手法

- ① 神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムの目録作成（3622点）
- ② アニメーションフィルムのデジタル化（47本）
- ③ 書籍「日本アニメーション映画史」作品目録 新版データベース化
- ④ 公開と発表

安井喜雄（神戸映画資料館）…統括
衣川太一（フィルム技術者）…フィルム調査
橋本英治（技術者）、麓貴広（神戸芸術工科大学）…デジタル化
野中和隆（アニメーション作家・研究）…紙フィルムデジタル化
佐崎順昭（映画史研究）…内容調査
板倉史明（映画研究／神戸大学）…検閲時情報調査
松山ひとみ（アーキビスト）…既存のデータベースとの連携のための調査
佐野明子（アニメーション研究／同志社大学）…同定調査



紙フィルムのデジタル化



成果

神戸発掘映画祭2023（10月開催）において、調査報告と上映を実施。

「日本アニメーション映画史」（1977年/有文社）作品目録の改訂部分と調査報告書、一部の動画をウェブサイトで公開。

「日本アニメーション映画史」の新版作品目録については、1960年代初頭までの古典アニメーションを対象に改訂作業を行い、データベースの基礎となる信頼できるデータを作成することに重点を置く。

<https://kobe-eiga.net/cinema/research/>